

「初歩きに参加して」 何かをやり遂げた 後のビールは最高

井上 芳史

高退協と山登りの会の共催で1月6日に「初歩きと新年会」が行われました。



天気予報では「5日の夜から6日にかけて曇り時々雨」、やはり私は雨男だな。生徒部長をしていた時、遠足の計画を立てるとその日は雨。家庭訪問で宿毛に行っている時、須崎あたりで大雨で出張を取りやめなどなどあります。5日の真夜中には雨音が強くなり「雨の中、登るのに適当な格好がない」なんて、うつらうつら思いながら寝入ってしまいました。朝、起きてみると曇り空、傘は片付け、広島球場で使ったポンチョをカバンに入れていざ出発。

8時過ぎに高知城ホールにつき、1階のロビーに行くとお世話になった先生もおられ一安心。総勢19名の参加者で3台の車に乗り込み野市に向かっ出て出発。野市に向かう中、雲の間から明るい陽射し。竜河洞に行くスーパールン道から脇道に入るとここはこ道「この車、エンストしないかな」「ここで止まったら帰るのどうする」なんていいながら目的の場所に到着しました。

山頂の紅葉神社から



みなさん、帽子をかぶり、リュックを背負い、山登りはベテランといふ雰囲気、最初は車が通れる平坦な道でしたが、傾斜があり少し息が切れ、会話がスムーズにできなくなりまじりました。山頂の紅葉神社の手前になると不規則な階段でしたが、手すりがあったので助かりました。神社で参拝し、帰りは山道で、滑りこけない

2.11 「建国記念の日」に反対し、日本の未来をどう考える

小松 茂弘

2月11日、「建国記念の日」に反対する集いが高知城ホール4階で開催され、300人以上の参加がありました。高知県平和委員会と平和運動センターが合同で集会を開くのは28年ぶりで、幅広い団体市民の結集がはかられました。高知憲法アクションが共催しました。憲法ネットワークの藤原充子さんが、「日本の平和が危機に立たされている。子や孫のために一緒に考えよう」とあいさつをした後、高知大学教授の小幡尚さんが、「歴史学の視点から『建国記念の日』について考える」と題し、神武天皇が即位したと伝えられる日を祝日と定めたのは1872明治5年で、紀元節と名付けられたのは1873明治6年。「建国記念の日」は「紀元節」が復活し、1987昭和42年から祝日に決定されたもので、伝統の虚構性を指摘。安倍政権とその周辺から発せられる「国家神道の国家至上主義」を厳しく批判しました。

高知大学准教授の岡田健一郎さんは、「緊急事態条項」とは何かと題し、憲法9条改憲と同様、もしくはそれ以上に

ように足を確かめ、そばにある木にしがみつきながら下りました。40分ほどの行程だったと思います。参加者の中の最高年齢は85歳と聞きびっくりしました。12時過ぎには三環園に着き、温泉でひと風呂浴びて汗を流し、おいしい料理をいただくことができました。何かをやった後のビールは最高でした。2時間ほどが経ち、終わりが近づいてきてあちこちで笑い声、とても雰囲気の良い新年会となりました。新年早々気持ちの良い汗をかき、おいしいビールと食事をいただき最高の1日となりました。企画してくださった高退協の先生方、ありがとうございました。また、誘ってください。

に危険性があり、政府が緊急事態を宣言すれば、内閣の判断だけで法律を作り、予算を執行し、人権に制限を加えることが可能になり、立憲主義を否定しかねないものだと指摘しました。平和運動センターの山崎秀一さんは、「戦争への道と沖

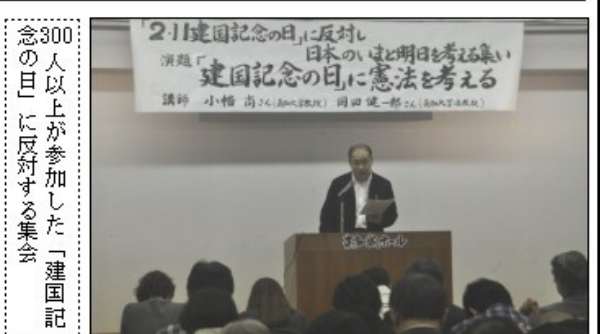
未来をひらく教育のつとめから

別役 美佐

「憲法、子どもの権利条約を教育にいかそう」みんなが平和な未来をつくるために、テーマのもとに、2月20日、未来をひらく教育のつとめが、太平洋学園で開かれた。全体会は、「アクティブ・ラーニング入門講座」と題して、藤田毅さん(太平洋学園)から基本的な考え方とともに、実践報告がなされた。



学校教育におかれる「学び」の型を、銀行型(知識やスキルを学んで、それを預金のように貯め込む)から、料理教室型(自分なりの料理方法や味付けを創意工夫していき、料理の仕方を修得する)へ。従来の一斉授業、知識伝達型の学習(受動的)から、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法への説明があった。藤田さんは、その実



300人以上が参加した「建国記念の日」に反対する集會

「縄」と題して沖縄の現状をスライドを使って報告し、沖縄に連帯する闘いを呼びかけました。「デモクラビックピッツ」「こうち九条の会」「たちあがる市民の会」「安保法制に反対するママの会」から発言があり、県労連の田口朝光さんから、戦争法廃止と立憲主義の回復をめざし2000万人を推進し、安倍内閣を倒す大波を高知から起こそうと行動提起がありました。

践において、授業の中で、生徒が隣の人と話をする時間を設けたり、授業の最後に一言感想を書くなどの、生徒の言語活動の充実を図る事例。また、他者とコミュニケーションが取りにくい生徒にあっては、ポストイットやiPad等を活用し、生徒の実態に即した表現活動の充実を試みる取り組みが語られた。

教科別では、国語、数学、社会、障害児教育の分科会が設置され、31名(高退協3名)の参加があった。数学の分科会では、高退協の土居康男さんから、レポート発表もなされた。なお、社会の分科会は、初めてフィールドワークを計画していたが、あいにくの天候で歴史民俗資料館においての開催となった。次回は、ぜひ、高退協の会員の方々からも、現役の先生方との交流の場としての参加をお願いします。なお、今回、理科の分科会は、別日程で開催されます。